

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
L302	都市・農村交流論	3年	講義	2	吉田 肇
授業概要 本科目では、日本における地域社会の経緯を踏まえて、社会生活の場である都市に生起する諸課題を比較検討、分析するとともに、具体的な課題に対する解決策を考える能力を育成するため、都市・農山村交流に係わる理論的・歴史的背景を学び、全般的な現状認識、課題や交流事業を習得するとともに、環境と調和した地域社会づくりの方向性や実現手法を修得する。併せて、栃木県や全国で講じられている地域活性化方策、今後必要とされる地域戦略等についての具体的な事例を通して理解を深める。					
到達目標(学習の成果) ① コミュニティをつなぐ社会人として活躍するため、都市・農山村交流に係る歴史的経緯と実践的知識を理解し説明できること。(DP2) ② 林業・農山村の現状と都市の環境問題との関連性など基本的・実践的な知識を有し、都市や農山村に生起する諸課題を分析・比較検討し、対応策を考えることができること。(DP3) ③ 都市・農山村交流を通じた環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解し、自分の思いを述べるができること。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	いま、なぜ都市・農村交流なのか	「都市・農村交流論」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市・農山村交流の背景と必要性について学ぶ。			
2	マチとムラの誕生	なぜ、都市ができるのか、都市の起源に関するプロセスについての経済学的アプローチとともに、これまでの都市と農村の交流・連携のあり方について学ぶ。			
3	変わる都市と農山村の関係	従来の分離・対立の関係から連携・協働の関係へなど、多角的な視点から都市と農山村の新しい関係性について学ぶ。			
4	マチの変貌(東京への一極集中と国土計画の変遷)	わが国の都市化、とりわけ東京への一極集中の背景と動向、それを是正するために取組まれてきた国土計画の変遷と現状について学ぶ。			
5	ムラの変貌その1(食料生産の危機と農村、耕作放棄等)	食料生産の危機、耕作放棄と農村等の変貌と、都市・農山村交流の推進による解決の方向性について学ぶ。			
6	ムラの変貌その2(林業の危機と山村等)	林業の危機と山村等の変貌と、都市・農山村交流の推進による解決の方向性について学ぶ。			
7	ムラの変貌その3(水産業の危機と漁村等)	水産業の危機と漁村等の変貌と、都市・農山村交流の推進による解決の方向性について学ぶ。			
8	産直取引とアンテナショップ	中間試験(範囲:講義第1～7回)を実施し、その解説を行う。 また、高まる産直ニーズ、ふるさと回帰ブームと都市部に設置されたアンテナショップの効果について学ぶ。			
9	地産地消と農家レストラン	地産地消の拠点として位置づけられる農産物直売所や地域の食材を用いて立地する農家レストラン、さらには農林漁業体験民宿の動向と地域活性化効果について学ぶ。			
10	グリーン・ツーリズム, エコツーリズム	自然・文化・地域住民との交流を楽しむ余暇活動であるグリーン・ツーリズム、農村景観・地域芸能や環境資源を活用したエコツアーの動向について学ぶ。			
11	都市・農山村交流の手法その1(姉妹都市, ペアリング支援等)	都市・農山村交流の手法のうち、姉妹都市、ペアリング支援など都市と農山村の交流のきっかけづくりについて学ぶ。			
12	都市・農山村交流の手法その2(流域圏・上下流交流等)	都市・農山村交流の手法のうち、流域圏という視点から上下流の新たな地域連携を図る動向と方向性について学ぶ。			
13	都市・農山村交流の手法その3(6次産業化, コミュニティビジネス等)	都市・農山村交流の手法のうち、6次産業化など農山村側の自立化とそれを推進する都市側の新たな支援とUJI ターン等につながるビジネス化について学ぶ。			
14	都市・農山村交流の手法その4(低炭素社会の構築等)	都市・農山村交流の手法のうち、低炭素社会の構築に向けて展開するカーボン・オフセットなど地域間連携の取組の動向と方向性について学ぶ。			
15	都市・農山村交流の課題と展望	都市との交流によって「小さな経済」で農山漁村は持続可能となり、新しい価値観により若者にも農山漁村への移住ニーズが高まっている。このような都市・農山村交流の今後の課題と展望について学ぶ。			

準備学修(授業外の自己学修)

- ・栃木県や身近な地域においても、農林業や農山村を取り巻く環境が大きく変わりつつあるため、日頃から新聞やテレビニュースなどから関連情報を得るなど、アンテナを高くして知識を高めておくこと。
- ・「道の駅うつのみや ろまんちっく村」(宇都宮市新里町丙254番地, <http://www.romanticmura.com/>)は、都市と農村の数多くの交流メニューを備えた交流拠点となっているので、機会があったら訪問・見学して、都市・農村交流のイメージをつかんでおくこと。
- ・宇都宮市では、「ダブルプレイス(二地域生活)」という新しいライフスタイルを提案している。(<https://utsunomiya-dp.style/>) 都市と農村、都市と都市など、性格の異なる地域が交流することでもたらされる価値について、自分なりに考えてみることを。

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%), 中間試験・小テスト(10%)及び出席・授業態度(30%)に基づいて、絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
都市・農山村交流に係る歴史的経緯と実践的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
基本的・実践的な知識を有し、都市や農山村に生起する諸課題への対応策を思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
環境と調和した地域社会づくりの方策や手法を理解し、自分の思いを表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回、講義内でコピー資料を配付する。

参考書等

- ・「都市と農村 交流から協働へ」、橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫(編著), 日本経済評論社, 2011年, 3,672円(税込)
- ・「交響する都市と農山村: 対流型社会が生まれる(シリーズ田園回帰④)」沼尾 波子(著), 農山漁村文化協会, 2016年, 2,376円(税込)
- ・「知られざる日本の地域力—平成の世間師たちが語る見知らぬ五つ星」, 椎川 忍(著), 藻谷 浩介(著), 斉藤 俊幸(著), 宮口 伺迪(著), 山田 桂一郎(著), その他(著), 今井出版, 2014年, 1,944円(税込)

履修上の注意・学修支援

- ・宇都宮市は人口50万人を擁し、域内にも都市部と農村部という2つの性格のエリアを有している。都市内外での交流活動も視野に入れながらシティライフを考えてみる内容でもあり、暮らしに身近なテーマとして意欲を持って取り組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講カード」に具体的に記入すること。カードへの記入内容を出席・授業態度の判断材料の1つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。
- ・国内の都市・農村交流を対象としているため、日本国土の伝統文化や都市・農山漁村の地域特性などについての基礎知識を有していることを前提とする。